



ジルコニアに黒い跡が残らないピンセットと作業効率の良い焼成ピンの紹介

島田康司

Shimada Kouji

土屋デンタルクリニック 大分オフィス
大分県歯科技工士会所属



1. はじめに

ジルコニアを扱うにあたり、スチームクリーナーによる清掃や各種技工操作において、ピンセットを使用する機会が多いと思われる。しかし、ジルコニアを金属のピンセットで把持すると、「黒い跡」が残るという経験をした方も多いのではないだろうか (Fig.1 左)。この黒い跡を解決するためには、ハンドルを付与するなどの方法があるが、完成後にジルコニアのハンドルを削除するのは一手間である。

そこで、普段筆者が使用している黒い跡が残らないピンセットと作業効率の良い焼成ピンを合わせて紹介したいと思う。

2. 先端に熱収縮チューブを使用しているピンセット

このピンセット (Fig.1 右) は、先端に熱収縮チューブを装着する仕様となっており、ジルコニアを金属ではなく樹脂で把持するため、上記の黒い跡が残らないという利点がある。

また、この熱収縮チューブは滑り止めの効果もあり、スチームクリーナーの蒸気の力に対して十分な把持力を発揮し、レイヤリング時のコンデンスや、ステイニングも安心して行うことができる (Fig.2)。

3. 4本のピンで構成される焼成ピン

このピンは任意での屈曲が可能であり、様々な症例に対応できる。また、屈曲によるバネの力でクラウンを把持することができ、ステイニング後、そのまま焼成台に置くこともでき、作業の効率化が図れる。

さらに、クラウンに対する接触面積の小ささによる熱伝導率の高さも利点である (Fig.3)。

4. おわりに

世の中には、「良いもの」がまだまだあるのかもしれないと、胸をふくらませている。

Fig.1



Fig.1 黒い跡 (左) とそれが残らないピンセット (右)

Fig.2

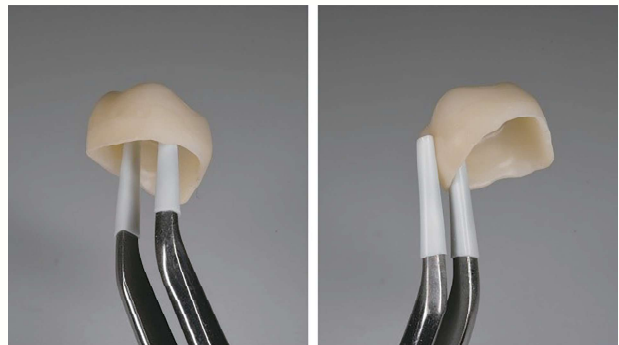


Fig.2 ピンセットの使用例

Fig.3



Fig.3 焼成ピンでのステイニングの様子